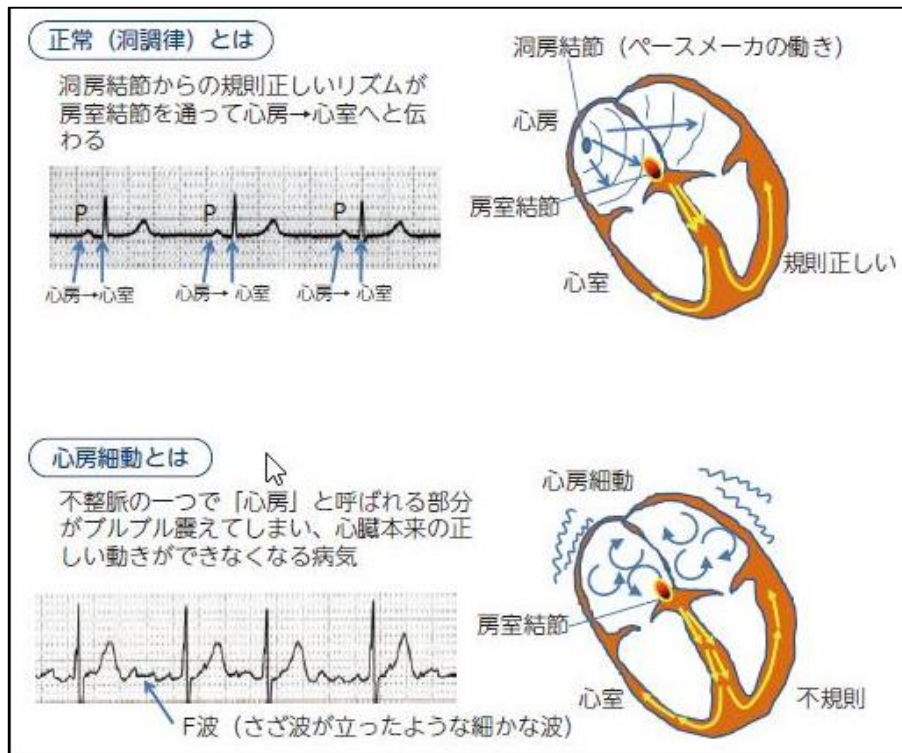


## バセドウ病の合併症 その2

### 2 不整脈（心房細動）

#### A) 不整脈（心房細動）とは？

心房細動とは、不整脈の一つで、心房と呼ばれる部分がぶるぶる震えてしまい、心臓本来の動きができなくなる病気で、血液がよどみ、血栓ができやすくなるため、脳卒中（脳血栓症）を発症するリスクが高まります。



---

**A)心臓が原因の心房細動と異なり、バセドウ病の心房細動の多くは、バセドウ病の内服治療か電氣的徐細動で治ります。**

---

バセドウ病の治療をして甲状腺ホルモンが正常になったら心房細動のある 10 人中 7 人ではこの不整脈はなくなります。しかし、残りの 3 人では不整脈が続きます。不整脈が続いた場合、心臓の中に血栓（血の塊）ができやすくなり、それが飛んで体の動脈に詰まることがあります。

一番怖いのは脳の血管に詰まることです（これを脳塞栓といい一種の脳卒中です）。心房細動がずっと続いている人の 10 人に 1 人が脳塞栓を起こしていることが分かりました。普通の人約 10 倍の危険率です。

---

**B)バセドウ病の心房細動は 10 年以内ならよく治ることが分かってきました。**

---

心房細動になって 10 年経っていないなら、薬か、電氣的除細動（DC カウンター：一種の電気ショックでアメリカのブッシュ元大統領もこの治療を受ける

ことになっていました) で治ることが多いので、積極的に治療を受けることを勧めます。

## 心房細動の治療

